ＳＳＨ物理　夏休み特別編

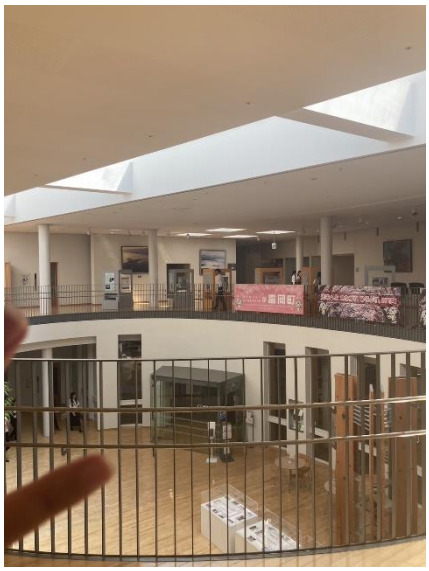
国際メンタリングワークショップ　joshikai in Fukushima

今年で５回目の開催となった「joshikai in Fukushima」。今年度のワークショップは国内外からのメンターさんだけでなく、ルーマニアからの同世代の女子が参加した。

将来の夢や目標がはっきりと決まっている生徒も、そうでない生徒も、はたまたやりたいことが多すぎて将来が見通せないような生徒も。同年代の女子や世界各地で様々な経験を積んできたメンターさんの話を聞いて前向きな気持ちになる貴重な機会となった。

１日目・２日目

基調講演、ポスターセッション、ディスカッションなど…



初日と二日目はメンター講演、研究者の方々によるポスターセッション、メンターさんを交えたグループディスカッション、ディスカッションを踏まえ今回のワークショップで考えが変わったことのプレゼンテーションを行った。会場は今年四月に特定復興再生拠点区域の避難指示が解除されたばかりの富岡町に位置する「富岡町文化交流センター」。原発事故の影響を大きく受けた地区でこれからの科学との向き合い方なども議論することが出来た。

私の所属していたグループのプレゼンテーションでは今回のワークショップで得たものを一言で表し将来の目標とともに発表した。私が選んだ単語は「捉われない、束縛されない」という意味の unbounded。既存の職に捉われることなく自分のやりたいことを追求していきたいと考えるきっかけになった２日間だった。

３日目

３日目は福島第一原子力発電所の視察をした。ここでは敷地内の除染作業が進んでいることを聞いた。しかし依然として原子炉内の使用済み燃料の処分や燃料デフリの取り出しは進んでいないことを知った。東京ではなかなか聞くことが出来ない発災直後の現地の人々の生活や被災地同士の助け合いにも触れることができた。

また風評被害を広めないためにも現場で正しく知ろうとすることの重要性も実感することが出来た。日本一の大消費地・東京に住む私たちには理解しようする態度が求められるのだろうと感じた。

おまけ

一日目の夕食は他校の高校生とメンターさんとの交流を深めるためにレセプションという形だった。同じテーブルに座った他校の子たちと話すきっかけにも、メンターさんへ気軽に質問をするきっかけにもなった。

そのレセプションでの食事がなんとビュッフェ！ｓｓｈの行事でここまで豪華な食事ができるとは全く思っていなかった。

今週の週刊ＳＳＨを読んで少しでも興味を持った人はこの貴重な経験ができる joshikai in Fukushima に参加してみてほしい。